下野新聞
認知症カフェプロジェクト
過去の特集はこちら！

Vol.30 とちぎオレンジガイダンス

本年度の認知症カフェプロジェクトのテーマは「認知症のこれまでとこれから」です。昨年11月24日、那須赤十字病院（大田原市）で「もの忘れ外来」を開設する伊藤雅史脳神経内科部長が「もの忘れ外来と医療現場からみる認知症について」と題して、宇都宮市のベルヴィ宇都宮で対談しました。聞き手は認定社会福祉士の永島徹さん（佐野市）

企画制作/下野新聞社ビジネス局

下野新聞 認知症カフェ プロジェクト2024

那須赤十字病院 脳神経内科部長
伊藤 雅史氏

認定社会福祉士、日本認知症ケア学会理事
永島 徹氏

永島氏 ますます重要な連携／医療圏でばらつきも 伊藤氏

永島　伊藤先生は那須赤十字病院で「もの忘れ外来」を開設しています。どのような経緯で認知症に関わるようになったのですか。

伊藤　大学では神経免疫の研究をしていました。急性期疾患の治療にやりがいはあったのですが、もともと患者とゆっくり時間をかけて話をしたり年配の方が好きだったりしたので2005年、獨協医大に認知症センターが開設された際に外来担当の一人として運営に携わりました。その後、宇都宮市内の病院で「もの忘れ外来」を開き、19年から那須赤十字病院脳神経内科に勤務しています。

那須赤十字病院では一人で外来、入院、救急を行うので手いっぱいでしたが、20年に当時の副院長から「そろそろ認知症外来を開いて地域貢献したらどうだ」と打診されました。認知症看護認定看護師がいる心強い環境に後押しされ、「もの忘れ外来」を開設しました。

永島　長年認知症患者と向き合ってこられましたが、最近感じることがあったら教えてください。

伊藤　新薬の発売がニュースになり、患者から新しい情報についてどんどん質問を受けるようになりましたね。

ただ残念ながら認知症に注目が集まっているにもかかわらず、地域によって医療に差が生まれています。医療従事者や介護職など専門職の連携や勉強会、専門病院である認知症疾患医療センターの有無などです。患者はどの地域にもいますが、医療圏としてばらつきや差があると感じます。

不安が怒りを誘発

永島　「親や配偶者が忘れっぽくなってきた、認知症かもしれない、どうしよう」と思った時に、家族はどうすればいいですか。

伊藤　病院へ行くことは大切ですが、まず考えていただきたいのは、もの忘れになってきた親、配偶者らがどのような生活を送っているか、知ることです。刺激がなくただ過ごすという毎日では脳は年齢とともに衰えます。その上で受診していただき、内科的な病気からくるもの忘れなのか、脳に病気があるのかなどを調べて、認知症の診断をします。原因を探ってもらうためにもの忘れ外来にかかるんだ、という気持ちで利用してください。

永島　認知症と診断した後、どのようなアドバイスをしていますか。

伊藤　認知症という病気でもの忘れになるのは仕方がないことですが、認知症に身体の衰えが加わってさらに認知症が悪化する、という人が多いです。ですから、患者には趣味を持って体を動かし刺激を受ける場に出掛けることを勧めています。

家族にはアルツハイマーの基本的な感情は不安で、不安感から引きこもったり怒りっぽくなったりすることを説明します。

また「さっき言ったでしょう！」「何回言ったら分かるの！」と怒鳴ってしまうこともあるでしょう。でもそれは患者には酷な言葉なのです。何回も聞いてくるということは患者が確認する努力をしていることです。いつか脳の機能がかなり落ちると何も聞いてこなくなります。何回も聞いて何とかしようと頑張っている患者を支援しましょうと伝えています。介護は大変ですが「なんとかなるさ」とゆるく構えることも大事です。

看護・介護専門職や認知症患者家族が参加したオレンジガイダンス

つながりが大切に

永島　介護職員の人手不足が深刻です。

伊藤　報酬や待遇など介護の在り方全体を見直す時期にきています。患者の家族にできることは、介護職のありがたさをきちんと認識し感謝することです。介護職は大変な仕事ですが、患者や家族の感謝の気持ちが仕事のモチベーションになっているのは間違いありません。

永島　人手不足を補うために連携が必要です。患者本人、家族、専門職が連携しながら伴走型の支援をしていくことに加え、地域の皆さん同士でつながりを持ちお互いにできることをやっていくということも大切です。そうしないと次につなげていく未来は来ないでしょう。栃木県内には、認知症にとても理解のある医師が大勢います。そういった医師たちとともに頑張っていきたいと思います。

栃木県産苺
とちあいか（約280g×2パック）
30名様にプレゼント
▼応募方法 はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、紙面の感想などを添えて〒320-8686下野新聞社ビジネス局「とちあいか」係まで応募してください。1月31日消印有効。賞品の発送をもって発表とします。応募いただきました個人情報は、賞品発送・意見分析・下野新聞社主催および後援事業のご案内に使用させていただく場合があります。【下野新聞社ビジネス局】

私たちは「下野新聞認知症カフェプロジェクト」を応援しています。

JA全農とちぎ　NTT東日本　那須赤十字病院　エフピー介護サービス株式会社　栃木ダイハツ販売　朝日生命

企画協力　栃木県　一般社団法人 栃木県医師会　公益社団法人 認知症の人と家族の会　栃木県歯科医師会　一般社団法人 栃木県薬剤師会　公益社団法人 栃木県看護協会

応援医療機関　赤羽医院、宇都宮リハビリテーション病院、皆藤病院、新宇都宮リハビリテーション病院、杉村病院、長島医院、那須南病院、根本医院、真岡中央クリニック、両毛病院

下野新聞認知症カフェプロジェクト プレゼンツ
とちぎオレンジゴルフコンペ

コンペ参加費無料！ ※プレー費などは別途かかります。
参加者全員に賞品あり！

開催会場　2025年3月26日（水）　参加人数150名
鹿沼72カントリークラブ
栃木県鹿沼市楡木町1475　TEL:0289-75-2111
スタート時間　各組のスタート時間は主催者で決定後、申込者（代表者）にメールにて通知いたします。
プレー費　大人 6,000円　会員 5,400円
参加費無料　ジュニア 4,800円　税込み・ゴルフ振興基金込み・昼食・利用税込
※プレー費は当日会場にて支払い。
※ジュニアのみの組は保護者のカートボランティアをお願いします。
申込期間　2025月1月下旬～3月7日（金）まで
お申込みフォームはこちら！
https://is.gd/BFJT5X

主催　下野新聞認知症カフェプロジェクト
開催目的　いわゆる団塊の世代が75歳以上を迎える2025年には、65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症であるという推計があります。
また、認知症については、高齢者だけではなく、65歳未満で発生する若年性認知症も問題視されており、今後、日本において、認知症がますます重要な問題になっていくことは明らかです。
そこで、弊社では、誰もがなりうる認知症に対して、認知症を知ることで認知症に対する不安や恐怖、偏見を取り除き、認知症に対する県民への理解を深める普及・啓発の推進を図るため「下野新聞 認知症カフェプロジェクト」を展開しています。本大会はプロジェクトの一環で開催されます。
申込方法　上記二次元バーコードよりお申し込みください。
参加資格　県内に在住、在勤及び、栃木県ゴルフ場協議会加盟クラブの会員でラウンド経験がある小学生以上でオレンジリング及びオレンジの色の衣服・小物を身に着けていること。
賞品　入賞者に協賛社より賞品を進呈。参加者全員に参加賞有。
競技方法　18Hストロークプレー、ペリア方式、ハーフ集計
協賛賞品協賛　JA全農とちぎ　NTT東日本　那須赤十字病院　エフピー介護サービス株式会社　栃木ダイハツ販売　朝日生命
栃木県ゴルフ場協議会加盟ゴルフ場・栃木県ゴルフ連盟
お問合せ　下野新聞社 ビジネス局 ビジネスプランニング部　TEL:028-625-1104（平日10時～17時）